

令和4年第6回(11月)掛川市議会定例会  
一般質問発言順序

- |   |     |         |
|---|-----|---------|
| 1 | 9番  | 藤原正光議員  |
| 2 | 3番  | 橋本勝弘議員  |
| 3 | 6番  | 高橋篤仁議員  |
| 4 | 8番  | 山田浩司議員  |
| 5 | 10番 | 富田まゆみ議員 |
| 6 | 7番  | 大井正議員   |
| 7 | 17番 | 山本裕三議員  |
| 8 | 12番 | 松浦昌巳議員  |

令和4年第6回(11月)掛川市議会定例会  
一般質問発言順序(予定)

---

12/1 AM 9番 藤原正光 議員

3番 橋本勝弘 議員

-----  
PM 6番 高橋篤仁 議員

8番 山田浩司 議員

---

12/2 AM 10番 富田まゆみ 議員

7番 大井 正 議員

-----  
PM 17番 山本裕三 議員

12番 松浦昌巳 議員

## 一般質問通告要旨

議席番号	9	氏名	藤原正光	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 人生100年時代に対応した高齢者が活躍するまちづくりについて (答弁：市長)

令和4年度、静岡県の高齢化率が過去最高の30.2%となり、ついに30%を超えた。今後も高齢者人口の増加が見込まれているが、それに反して市内のシニアクラブ会員数は減少が続き、今年度は4,671人と合併当初から59.6%の減少率になっている。活力ある地域社会を次世代へと継承していくために、人生100年時代に向かって、これまで築き上げてきたさまざまな制度や仕組みの改善が求められている。高齢期の生きがいづくりや地域を豊かにする活動について、以下を伺う。

- (1) シニアクラブあり方意見検討会の進捗状況などを踏まえ、現在の課題をどのように捉えているのか見解を伺う
- (2) 平成23年10月に出された県老人クラブ連合会のイメージ向上対策に関する報告書に対して、これまでどのように支援・助言してきたのか伺う
- (3) シニアクラブ掛川に加入していない各単位クラブへの対応などについての考え方を伺う
- (4) 超高齢社会の到来により、シニア世代の地域社会の関わり方が問いただされていると思うが、見解を伺う
- (5) シニアクラブが持続可能な活動を継続していくために、地域コミュニティにおいて果たす役割を見直す必要があると思うが、見解を伺う
- (6) 高齢者の能力を活かした地域のための新しい雇用を生み出すような、地域関係者と協働で包括的な支援体制をつくる仕組みはできないか伺う

### 2 未熟児養育を含めた子育て支援について (答弁：市長)

日本で生まれてくる子どもの100人に1人が、何らかの先天性心疾患を持っていると言われている。心臓病を持つ子どもは、他の子どもと同じように遊ぶことや登校することができないこともあり、心の痛みを感じながら生活している。子どもやその家庭にも、精神的支援や経済的支援を手厚くし、安心して生活ができるようにしなければならない。子育て支援は、状況に応じて行うことが必要と考え、以下を伺う。

- (1) 幼児教育・保育施設におけるインクルーシブ教育・保育(※1)の推進を重点課題とした検討についての内容と進捗を伺う
- (2) 先天性心疾患の子どもとその家庭に対する適切な支援が十分でないと考え、見解を伺う

(3) 子育て支援サービスとして、おむつやミルク購入にも使えるクーポン券を配布できないか見解を伺う

※1 障がいのある者と障がいのない者がともに学び、障がいのある者が教育制度から排除されることなく、自己の生活する地域において教育・保育の機会が与えられること

### 3 避難タワーや津波避難の見直しについて

(答弁：市長)

国内初のプレストレストコンクリート（※2）による津波避難タワーが、平成22年3月に完成した。また、想定される津波に5時間決壊しない構造で防潮堤を嵩上げする海岸防災林強化事業「掛川モデル」が、令和4年までに盛土工6,240m計画されている。現在、海岸線地域ビジョン実施計画策定ワークショップが行われており、今後、海岸線の交流人口拡大が見込まれ、滞留旅客などに対する安全避難や高齢者避難についても見直しが必要と考え、以下を伺う。

- (1) 津波避難施設の見直しが必要と考えるが、見解を伺う
- (2) 津波避難タワーへのスロープ設置について伺う
- (3) 弁財天川の津波や遡上について対策を伺う
- (4) 広域避難所以外のテント泊などを希望する方や、帰宅困難者対策として車中避難を希望する方など大勢が避難できる防災公園が必要と思うが、見解を伺う

※2 コンクリート部材の引張応力の働く部分に、あらかじめ圧縮応力（プレストレス）を与えて長寿命化を図った部材

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	3	氏名	橋 本 勝 弘	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	---------	---

### 1 地方分権の推進と地域の実情に即した政策展開について (答弁：市長)

令和4年4月1日現在における都道府県別の市町村への権限移譲件数は、静岡県が全国一で125の法律に及び、県内では掛川市が政令市を除いて、藤枝市、磐田市に続く3番目となっており、県と共に掛川市においても地方分権の推進を積極的に行っている。

地方分権が求められる主な理由は、①「地域の実情に即した政策展開と個性ある地域づくりを進めるため」、②「住民の参画と政策決定の関与を可能とするため」、③「受益と負担の関係が明確になるため」などと言われている。

そこで地方分権が求められる3つの主な理由を踏まえ、次の6点について伺う。

- (1) 権限移譲のこれまでの成果と課題について伺う
- (2) 手挙げ方式による提案・要望への取り組み状況について伺う
- (3) 令和7年度に予定されている「掛川市農業振興地域整備計画」の方向性について伺う
- (4) 地域の実情に即した政策展開を踏まえれば、「農業振興地域整備計画」は地方分権改革の視点から改善の必要性があると考えますが、見解を伺う
- (5) 住民の参画と政策決定の関与を可能とするためを踏まえ、「まちづくり協議会」の法人化が必要と考えるが、見解を伺う
- (6) 受益と負担の関係が明確になるためを踏まえ、こども園整備の期待される成果について伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	6	氏名	高橋篤仁	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 災害に強いまちづくりについて

(答弁：市長)

掛川市は自然災害死亡者ゼロを目指して、災害に強いまちづくりを進めている。このような中、今年9月に襲来した台風15号は掛川市に土砂崩れや浸水被害など、甚大な被害をもたらした。

また、消防団の分団消防センター周辺が浸水し、車両が出動できない事態が発生した。河川においては土砂が流出し、至る所で堆積している状況が見受けられる。

今一度、防災減災対策を再考し、安全で安心なまちづくりの早期な構築が重要と考え、以下を伺う。

- (1) 地域の避難所の開設において、自主防災会との連絡をさらに密にする必要があると考えるが、見解を伺う
- (2) 通行不能が確認できた道路を、いかに早く市民に伝えるかで二次災害防止につながると考えるが、見解を伺う
- (3) 災害対策本部は、発災後も被害報告が収束するまで司令塔としての本部機能を持たせるべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 災害後、職員が出向き、現場調査や罹災証明書の申請案内など、市民に寄り添う行動も重要と考えるが、見解を伺う
- (5) 浸水区域にある消防団の分団消防センターは、浸水しない場所へ移転させる必要があると思うが、見解を伺う
- (6) 保全対象人家が5戸未満の場合にも、急傾斜地崩壊対策事業が行える市独自の事業を創設できないか、見解を伺う
- (7) 甚大な自然災害に備え、令和5年度当初予算において防災減災対策を手厚くすべきと考えるが、見解を伺う
- (8) 職員を総動員しても復旧に手が回らない場合には、非常事態を市民に呼びかける宣言を発出できないか伺う

### 2 地域医療について

(答弁：市長、教育長)

静岡県は全国的に見ても医師の数が少なく、さらに中東遠地域は医療従事者自体が少ない状況にある。

また、少子高齢化の傾向が進み、超高齢社会に向かっており、今後、高齢者にとっては通院手段の確保も不安となるため、在宅診療の充実も必要性が高まってきている。

諸問題解決に向け、さらなる医療環境の充実が必要と考え、以下を伺う。

- (1) かかりつけ医による訪問診療推進の方策を伺う
- (2) 訪問看護の周知方法を工夫すべきと思うが、見解を伺う
- (3) 超高齢社会に向け、移動手段がいないオンライン診療の推進が必要と考えるが、見解を伺う
- (4) 開業医誘致の方策を伺う
- (5) 中学生や高校生の進路指導時に、医療従事者を目指すことを後押しする方策は考えられないか伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	8	氏名	山田浩司	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 未来に向けてチャレンジする創業支援について (答弁：市長)

令和5年度掛川市行政方針の産業・経済分野では、「未来に向けてチャレンジできるまち掛川」に向けて、創業支援を位置づけている。本年度、「チャレンジBASEなかまち」でも創業された方々が未来に向けてチャレンジしている。しかし、創業された方々の経営について、まだまだ支援の手がほしいという声も聞く。そこで、創業支援について以下を伺う。

- (1) 創業支援については、どのような方向で進めて行くのか見解を伺う
- (2) 創業支援のため、助成金を出していくべきと考えるが、見解を伺う

### 2 学校が抱える課題について (答弁：市長、教育長)

学校が抱える諸課題として、施設の老朽化や民間・地域力の必要性等が挙げられる。現在、何年先に新しい学校になっていくかの計画も未確定な状況の中、児童・生徒たちが安心して学び、生活できる環境にしていくために以下を伺う。

- (1) 土曜日の教育活動の推進について、今後の方向性を伺う
- (2) 今後、学校施設の老朽化にどのように対応していくのか見解を伺う
- (3) 特別教室のエアコン設置について見解を伺う
- (4) 教育のICT化に向けた環境整備5か年計画の成果と課題について伺う
- (5) 全国学力・学習状況調査のCBT化(※1)に向けた取組について伺う

※1 CBTとは「Computer Based Testing(コンピューター ベースド テスティング)」の略称で、コンピューターを使った試験方式のこと



## 一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	富田まゆみ	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	-------	---

### 1 企業版ふるさと納税の積極的活用について (答弁:市長)

個人が行うふるさと納税に加え、企業の支援を受けて事業を行う「企業版ふるさと納税」は、自治体の財源確保にとどまらず、地域課題解決に向けて企業との連携を強められるという利点もあることから、これまで以上に積極的に活用していくことが持続可能な自治体経営に重要と考え、以下の点について伺う。

- (1) 企業版ふるさと納税の活用に関する基本的な考え方を改めて伺う
- (2) 現在行われている松ヶ岡修復活用事業、掛川潮騒の杜防潮堤事業以外にも、企業版ふるさと納税事業を増やすべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 企業の共感を得て寄附をしてもらうためには、シティセールスが不可欠と考えるが、そのために市のシティプロモーションをどのように展開していくのか伺う
- (4) 企業版ふるさと納税で実績を上げるには、首長によるトップセールスが有効と考えるが、今後の戦略を伺う
- (5) 企業版ふるさと納税をより効果的に進めるためには、「企業版ふるさと納税マッチング支援サービス」を利用することが有効と考えるが、見解を伺う

### 2 真に市民の命と財産を守る防災について (答弁:市長)

先の9月23日の台風15号では、尊い命を失うとともに道路河川等のインフラに大きな被害をもたらした。このことから、風水害に対する防災力の強化の必要性を強く実感している。頻発する風水害と地震・津波・原子力災害を含めた防災について改めて検証し、真に市民の命と財産を守る防災を考えることが重要と考え、以下の点について伺う。

- (1) 台風15号の災害状況を鑑み、改めて市や地区の防災体制、タブレット活用を含めた防災情報共有化の見直すべき点について伺う
- (2) 家族の避難計画や一人ひとりの命を守る行動について見直すとともに、防災ガイドブックを最大限活用したワークショップ形式による学びの場の創出が、命を守る行動に有効であると考え、見解を伺う
- (3) 単独の自主防災会だけでは対応が難しい事例の増加が予測される中、自治会同士がお互いに助け合う「姉妹自治会協定」や地区まちづくり協議会単位の連携推進が有効と考えるが、見解を伺う
- (4) スムーズな防災活動推進のため、女性防災リーダーの育成強化や女性が参加

しやすい防災活動（例えば、“微助人”びすけっと＝わずか、少し助ける人）の助言など、男性中心となっている防災の現場を改革すべきと考えるが、見解を伺う

- (5) 災害の性質が複雑多様化する中、特に日頃からの訓練が命を守ることに直結することから、形骸化している地域防災訓練の見直しが重要と考えるが、見解を伺う
- (6) 自家用車による避難、避難後の生活支援に重要となる車の避難先、車中泊のための用地確保も重要であると考え、見解を伺う
- (7) 今後の土砂災害防止対策、治山対策および森林機能の保全の進め方について伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	7	氏名	大井 正	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 行政経営方針の環境分野の施策目標達成のために (答弁：市長)

市が保有する海、山、川の豊かな自然や、公園、農地といった環境を守り、次世代に引き継いでいくことは、持続可能なまちを担保する第一歩である。そのためには行政が適切な計画を持ち、それを市民や企業との協働で着実に実行していくことが重要である。また、国の施策や巨大プロジェクトに対しても、市として独立した評価を行い、臆することなく意見を挙げていく必要がある。この見地から以下について伺う。

- (1) 市の再生可能エネルギー条例策定の進捗状況と今後の進め方について伺う
- (2) 規模と場所によっては環境破壊の原因となりうる太陽光発電施設や風力発電施設導入にはゾーニングが重要であるが、条例にどのように盛り込むか伺う
- (3) 大型風力発電事業の準備書における、風力発電設備の設置ヤード造成と、発生する残土処分について、設計内容の開示と環境影響に対する考察が十分でないと考えますが、見解を伺う
- (4) 今後提出する意見書に、議会や市民、専門家の声を反映させるべきと考えますが、見解を伺う

### 2 行政経営方針の産業・経済分野における自然エネルギー政策及び地域循環型経済の創出について (答弁：市長)

太陽光パネルの設置は、1か所当たりの施工量は小さいが、多数の工事件数が長期にわたって期待できる。また、従来から指摘されている住宅リフォーム事業が拡大することは、市民の需要に応えることや工事の喚起につながる。こうした施策こそ掛川に仕事を作り、掛川に住むことに満足感をもち、市民一人ひとりが輝くことになると考え、以下について伺う。

- (1) 行政経営方針で触れられている上西郷工業用地整備事業の工事費と、これに携わる企業数、作業員の概略延べ人数について伺う
- (2) 上西郷工業用地整備事業における掛川市内業者数とその作業員の延べ人数について伺う
- (3) 昨年度、住宅リフォーム事業で発生した工事数、工事金額と、受注した企業数および作業員の延べ人数を伺う
- (4) 市民や企業が太陽光パネル設置に積極的に取り組むよう、助成制度の拡充と普及の啓発強化を行う考えはないか伺う

- (5) 学校など公共施設の屋根に太陽光パネルの設置が進んでいるが、設置面積が小さいことや、発電した電気が有効利用されていないなどの課題の解決方を伺う
- (6) 小規模太陽光発電事業にかけがわ報徳パワー(株)が関与し、自主電源を確保する考えはないか伺う

### 3 台風15号の教訓を活かした安全・安心都市基盤分野の施策について

(答弁：市長)

台風15号により市内でも甚大な被害が発生した。今回の経験を検証し、対策を講じておくことが、安心・安全につながると考え、以下について伺う。

- (1) 対策本部の在り方や、情報の伝達・管理、権限の付与といった中枢業務について検証結果に基づく改善点を伺う
- (2) 冠水の恐れのある地区で、自動車の避難場所を地域の要望に沿って確保しておくべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 障がい者や足腰の弱ったお年寄りがいる家庭から、大雨に関する気象情報が出た段階での付き添いが可能な避難所の設置を求める声がある。福祉避難所などの規定にとらわれない、柔軟な対応が必要と考えるが、見解を伺う
- (4) 罹災者の救済について、写真撮影や書類などの準備について事前の周知がされていない事例や、そもそもマニュアルがない事案の掌握状況と対策について伺う

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	17	氏名	山 本 裕 三	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	---------	---

### 1 地域要望への対応について

(答弁：市長)

掛川市では地域協働環境整備事業として道路、水路などの小規模な改修修繕工事について、1地区3件以内の要望を受け地域の要望にきめ細やかに対応している。地域の要望に行政が応えることは、行政と地域の最良のコミュニケーションであり、信頼関係を築き地域の環境整備を行う大変重要な業務である。また、地区集会は「地元ミーティング」と装いを変えて一方的な情報提供ではなく、各地区が設定した「市と共有したいテーマ」について対話を行っている。そこで、以下について伺う。

- (1) 地域協働環境整備事業の来年度以降の方向性について伺う
- (2) 地域協働環境整備事業は、年間を通しての工事の平準化の観点からも地区要望の早期提出、春先からの工事着手をより推進する必要があると考えるが、見解を伺う
- (3) 地域協働環境整備事業に関する地区要望の執行率向上に向け、実施困難案件の内、早期提出の要望に限り再提出ができないか伺う
- (4) 地区集会において、現時点で草刈りをテーマにした地区がどの程度あったのか伺う
- (5) 草刈りのニーズに対する対応策を伺う
- (6) 地域協働環境整備事業費を手押し式の草刈り機などの購入補助に充てることできないか伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	12	氏名	松浦昌巳	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	------	---

### 1 市民活動の推進について

(答弁：市長)

新型コロナウイルス感染症は依然として収束していないものの、感染対策を講じながら少しずつ以前の生活や活動が行われ、市内の高校や中学校では県大会や全国大会での活躍がみられる。市民の活躍や活動などの広報を積極的に行うことで市民の高揚感が増し、よりチャレンジできるまちとなり、市民にとってより身近な掛川市となると考える。掛川市にとって、市民一人ひとりが主役であり、これまで以上に市民をクローズアップしていくことが必要と考え、市長の所見を伺う。

- (1) 広報かけがわに市民活動に特化したページを増やせないか伺う
- (2) テレビのデータ放送を活用して、市民活動や市の情報などを配信することができれば、「手のひら市役所」と合わせて、「お茶の間市役所」となり、より身近な掛川市となると思うが、見解を伺う
- (3) 団体同士や団体と地区をつなぎ、常に情報発信を行える協働センターの再構築が必要と考えるが、見解を伺う

### 2 脱炭素社会の構築について

(答弁：市長)

台風15号では、人的被害も出るなど、このところの異常気象は予想をはるかに超えた規模になっている。これらを引き起こす原因のひとつとされるCO<sub>2</sub>を削減することは、この地球に住むすべての人間にとっての最重要課題である。特に乗用車から排出されるCO<sub>2</sub>の割合は多く、一人ひとりの意識の変革が求められる。脱炭素社会の構築は、事業者や個人任せではなく行政が積極的に取り組む必要があると考え、以下について伺う。

- (1) 乗用車の使用を減らすために、公共交通機関の利用を推進するべきと考えるが所見を伺う
- (2) 乗用車から排出されるCO<sub>2</sub>削減のため、運転免許証を返納した市民に対し、環境政策の視点から年齢に関係なく支援するべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 公用車の電気自動車化を推進し、事業者などとのシェアリングが考えられないか伺う
- (4) 乗用車を使用しないで通勤する職員に対する支援が必要と思うが、見解を伺う
- (5) スピード感を持った脱炭素社会の構築のためには、都市政策、環境、企画な

ど所管を越えたタスクフォース（庁内組織）または専門部署の設置が必要と考えるが、見解を伺う

### 3 移住定住策について

（答弁：市長）

掛川市は、新幹線や高速道路など交通網に恵まれ、都会へのアクセスも良く、昨今では在宅勤務が可能となり、移住してくるには最適な場所である。掛川市オンライン移住相談会や出張移住相談「掛川DAY」などの相談では、地域の特性や学校、子育ての問い合わせはあるものの、相談者の移住に対する強い思いはあまり感じられないとのことである。そのような中、掛川市は移住定住策に対してどのように考えるのか所見を伺う。

- (1) 相談会の窓口で待つだけでなく、こちらから積極的に仕掛ける事業が必要と考えるが、所見を伺う
- (2) 空き家や市営住宅の空き室を利用した「掛川お試し移住パック」などを企画し、滞在して市内の生活、交通、環境などを体験していただくことが必要と考えるが、見解を伺う
- (3) 教育、観光、農業、生涯学習、都市政策、シティプロモーションなど所管を越えた移住定住に特化したタスクフォース（庁内組織）が必要と考えるが、見解を伺う